

# 児童発達支援・放課後等デイサービス自己評価

とおりゃんせ3

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			
	2 職員の配置数は適切であるか	○			利用児の状況により、基準より多くの職員を配置している。長期休暇は、早出スタッフ、遅出スタッフを配置し延長利用に対応している。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			玄関にスロープを設置。フルリクライニング車椅子でも入室可能。エレベーター使用可。設備についてはほぼバリアフリー化している。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか		○		
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			事業所の活動についてのアンケートを行い評価を公表し、問題点について話し合い業務改善につなげている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページに公開
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			専門職として、携わっている方に相談し評価結果に基づいた問題点や改善策を検討し業務改善につなげている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			新人研修は1ヵ月以内に実施。各専門職が研修会を設け、多職種の資質向上と連携につなげている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			保護者様との面談を行い、希望に添って計画を立てている。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			評価表に実施結果を記入している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			保育士・理学療法士・児発管等で情報を共有し、立案している。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			季節の制作物や活動内容を取り入れると共に、調理活動、レクリエーション等の多様なプログラムとしている。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			長時間ならでの活動や課題を設定するなど工夫している。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			その日利用する児童に合わせた集団活動の計画を立てている。
	15 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			活動の流れを話し合い、役割分担でどのように動くのかを打ち合わせる。
16 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			終了後は常勤スタッフのみとなる為、振り返りは行うが、翌朝のミーティングには必ず打ち合わせ内容に含める。	

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日、その日のうちに支援活動記録をつけている。月ごとのまとめで次の支援につながる。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6か月に一度モニタリングを行い利用児の状況にあわせた見直しを行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			基本活動のア～エまでをふまえた上で活動を計画し支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい物が参加しているか	○			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			迎える時、担任より簡単にその日の様子を聞いている。その他必要な時には、保護者、学校などに電話や連絡帳などで確認している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			事業所1階に嘱託委(小児科医)が常にいる。保護者から情報を得ており、必要に応じて医療機関と連絡をとっている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			町内幼稚園、保育園に訪問し、施設外での様子も含め、情報の共有を行い、連携して支援を行っている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容などの情報を提供する等しているか	○			相談支援事業所に詳しく伝えている。(卒業生はまだ一人だけ)
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			研修は県内のみだけでなく、全国的な研修にスタッフが参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			近くの幼稚園へ、看護師・保育士・PTと一緒に訪問し、同世代の子ども達と活動する機会を設けている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか			○	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			保護者交流会(子ども達の食べているお弁当の試食会)の際、スタッフから講習をしている。
	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			見学時、また契約時に丁寧に説明を行っている。また、それ以外に保護者から問い合わせがあるとその都度対応している。
	31	保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			助言をしたり、相談に乗っている。また子育ての社会資源についてもお知らせしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			食事の試食会等を催し、保護者同士の連携を図っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			マニュアル化されており苦情については迅速に対応している。職員全員に周知すると共に改善策を検討する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月「お便り」を発行している。日々の食事、運動、健康等について詳しく伝えている。

	35	個人情報に十分注意しているか	○			個人情報の取り扱いには十分注意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子ども、保護者にはそれぞれ伝えやすい話し方や、伝え方に気を付け確かめながら伝えている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルは制作しており、保護者にも配布してある。配布後に新しく利用される保護者に対し手落ちがあるかもしれない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			消防署、防災士等と一緒に年2回以上行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			年1回以上研修を行っている。児童相談所、行政等とも連携をとり情報を共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			どういう状況が身体拘束に値するのか深く研修を積んでいる。身体拘束に値する行為は行っておらず毎日記録はつけている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			食物に制限のある子どもについては、保護者が用意したもの以外は提供していない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			「事例集」は作成していない。至急作成しファイリングしておき、いつでも見ることが出来るようにする。

